

## 11. 市販混紡ワイシャツ地の洗濯による白度及び強伸度の変化について

奈良女子大 辻井 康子

丹羽 雅子

水梨サワ子

1. 最近ワイシャツ地として合成繊維のみでなく木綿との混紡ワイシャツ地が盛んに出まわっている。そこで市販のワイシャツ地のうち、木綿100%、木綿35%、テトロン65%、木綿70%、ナイロン30%の3種類について着用実験をおこない、それぞれの白度、強伸度及び収縮率の変化について比較検討した。

2. 成人男子10名に3種類のワイシャツを3日づつ順次に着用せしめてそれぞれ25回洗濯した。洗濯方法は噴流式電気洗濯機を用い、予洗、本洗洗剤石油系合成洗剤濃度0.4%、溶比1:30、時間5分、液温 $40 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、すすぎをおこなった後、洗濯機附属のマングルで絞り、C.M.Cで糊付けし室内で自然乾燥した。後アイロン仕上げをおこなった。そして収縮率は毎回、白度及び強伸度については、原布5、10、15、20、25回にそれぞれ測定をおこなった。

3. 白度については、着用回数、洗濯回数を重ねるにしたがっていずれも次第に低下して着色されていく傾向を示すが特にテトロン混紡のものはその傾向が強いようである。これはテトロンの帯電性による汚れの吸着と考えられる。強度に関しては木綿100%、ナイロン混紡、テトロン混紡の順に大であるが、強度の低下率はテトロン混紡木綿100%、ナイロン混紡の順に大である。収縮率についてはいずれも著明な変化はみられない。乾燥速度はテトロン混紡かもっとも早い。